

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成21年7月9日(2009.7.9)

【公開番号】特開2005-257442(P2005-257442A)

【公開日】平成17年9月22日(2005.9.22)

【年通号数】公開・登録公報2005-037

【出願番号】特願2004-69026(P2004-69026)

【国際特許分類】

G 01 L 9/00 (2006.01)

【F I】

G 01 L 9/00 303 Q

【手続補正書】

【提出日】平成21年5月22日(2009.5.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

そこで、近年では、電磁波によって生じるノイズに対する耐性、すなわちノイズ耐性を向上させた圧力センサが考案されている(例えば、特許文献1の図10を参照)。図6は、従来の圧力センサの断面概略図である。以下、圧力センサの構造について、図を参照して説明する。図6に示す圧力センサは、ハウジングJ1と、ステムJ2と、ネジ部品J3と、基板J4と、ピン部品J5と、貫通コンデンサJ6と、ターミナル部品J7と、コネクタケースJ8とを備えて構成されている。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

上記構成を有する圧力センサでは、各ターミナルJ71からノイズが入力すると、ノイズが貫通コンデンサJ6を介してハウジングJ1に出力されるようになっている。このようにして、圧力センサの基板内の回路にノイズを入力させないようにすることができ、圧力センサにおけるノイズ耐性を確保することができる。したがって、圧力センサに接続された配線を伝わって入力するノイズによって圧力センサが不具合を生じることなく機能するようになっている。

【特許文献1】特開2001-264203号公報